

韓国初の女性大統領と男女共同参画政策

キム・ヨンジュ（韓国）

韓国では 2012 年 12 月 19 日に第 18 代大統領選挙が実施されました。今回の選挙において、韓国史上初めての女性候補である朴槿恵（パク・クネ）候補が大統領に当選し、彼女は 51.6%の有権者から支持を得ました。

朴槿恵大統領は、2013 年 2 月 25 日に、今後 5 年間、韓国を導くリーダーに就任します。これまで韓国では、役割と権限において最も重要な位置を占める大統領は、男性の専有物でした。世界的に見ても女性が大統領職に就任、あるいは在任中の国家は、ドイツ、チリ、フィンランド、フィリピンなど少数に過ぎません（2013 年 2 月現在）。こうした現状は発展した現代社会においても女性の社会的地位がさほど高くなく、依然として女性の政治的権限が男性に比べて非常に低いことを物語っています。

韓国において初めて女性大統領が誕生したことは、依然として男女不平等とジェンダー間の社会的、政治的格差が大きい韓国社会において、意味のある出来事と言えます。朴槿恵大統領は、朴正熙（パク・チョンヒ）元大統領（第 5～9 代）の娘という点で、本人の政治的な能力より父親の威光と



イメージのお蔭で当選できたと批判する声も多いです。また、父親である朴正熙元大統領は、16 年間韓国を統治し、経済的に多くの業績を残しましたが、強圧的な独裁者として多くの人びとの記憶に刻まれています。

こうした状況のなかで、女性である朴槿恵氏がリーダーシップを発揮することができるのか、男女共同参画の問題や社会的弱者に対する関心と政策意志がどの程度あるのかを憂慮する人びとが多いことも事実です。しかし、韓国での女性大統領の誕生は、さまざまな分野で女性が能力を発揮し、社会的・政治的な役割を担うことのできる夢と期待を抱かせる効果があると思います。

朴槿恵大統領の政策公約の中で、女性にかかる核心的な公約は「女性人材 10 万人養成プロジェクト」であり、その他にも女性に対する性的暴力への対応、女性の雇用拡大、ひとり親家族サポートの強化、保育サービスの提供などの公約を挙げています。こうした公約によって、朴槿恵氏が大統領在任中の韓国では、公的機関や民間企業において、管理職に就く女性の割合を高めるための制度、性的暴力被害者の保護や支援策が強化されるものと期待されています。

女性大統領の誕生を単なる象徴的な出来事に止めることなく、韓国で生きる多くの女性たちの力となり、韓国が男女共同参画社会へと発展する機会になることを望みます。